

## 大会宣言(案)

J R東日本輸送サービス労働組合水戸地方本部は、水戸市「ザ・ヒロサワ・シティ会館」において第8回定期大会を開催し、職場からつくり出す「日常活動」によって「輸送サービス労組運動」を推し進め、組織強化・拡大を実現していくことを満場一致で確認した。

「2025 J T S U春闘」は、物価高に負けない賃金のベースアップの実現するために、すべての仲間とともに職場からのたたかいを積み上げてきた。その結果、平均13,782円のベースアップと夏季手当においては2.8ヶ月(平均1,049,200円)と平均支給額が初めて100万円を超える回答が示された。そして、交渉では「物価上昇分を考慮した生活維持向上分としてのベースアップ」に加えて「鉄道業を生業としているJ R東日本として年功型賃金が相応しい」との認識一致を図ってきた。これはこの間の運動の成果であり、26春闘では“真の笑顔と活気あふれる職場”の実現に向けてさらに職場からのたたかいをつくり出していく。

5月7日、会社は「J R東日本グループのさらなる飛躍に向けた新たな組織と働き方について」を労働組合に提案した。この施策による生活環境の大幅な変化や手当廃止などの「不利益変更」によって、職場では不安と不満の声が渦巻いている。会社施策を現場からつくり出している私たちが帰属意識を感じられない施策では「社員・家族の幸福の実現」など到底実現できるはずもない。職場では「統括センター化」や「融合と連携」といった「変革2027」の弊害ともいえる“要員逼迫の常態化”に歯止めが利かない事態に陥っている。さらなる組織再編による事業本部化を見据え、現在の現業機関における休日出勤や時間外労働などの実態把握と問題の検証を通じて「事業場のあり方」を明確にし、本来あるべき事業場の実現に向けて全職場からのたたかいを要請する。

2025年は福知山線脱線事故、羽越本線列車事故から20年の節目の年となる。J R東日本の安全は「経営のトッププライオリティ」という言葉に反し、相次ぐ重大事故の連鎖が止まらず、いつお客さまの命を奪ってしまってもおかしくない事態だ。一方で、J R東日本会社の経営姿勢にはその危機感を感じることができない。2度目の東北新幹線の列車分離では「分併制御器が原因の1つ」と考えられることが“隠蔽”され続けた。そして、その事実を明らかにした組合情報に対し、会社は「社員の皆さんへ」を発出し、原因究明よりも自己保身に躍起になっている。このような経営姿勢は断じて許されるべきものではない。労働組合としての「チェック機能」を職場から高め、鉄道の安全性を再確立していかなければならない。

J R東日本の「企業ガバナンス」は崩壊の一途を辿っている。東北新幹線の列車分離における“隠蔽”や輪軸圧入データの“改ざん”、モーターの“不正検査”、さらにはジェイアール東日本企画の「人件費水増し請求」、アトレの「独占禁止法違反」などJ R東日本グループの企業不祥事は止まらない。また、勝田車両センターでの「団体交渉の確認事項を反故にした、一方的な業務委託の解消」についても看過できない。会社は「委託は解消していない」との回答を繰り返すが現場実態とは明らかに乖離している。さらに交渉では、本来J R本で行うべき業務がM T Sで行われていた「偽装請負」と疑われる事象まで発覚した。これら一連の行為は、労使確認を反故にする誠実交渉義務違反であり、明らかな不当労働行為だ。今後は第三者機関を活用したたたかいと同時に、グループ会社との労使協議を通じて問題の解決を図っていく。

この間、私たちは「3672問題」から水郡線沿線の地域・社会との連携や「とみおかワイナリー」の方々との関係をつくり出してきた。中編成ワンマン運転やみどりの窓口廃止など“利用者不在”の施策によって安全とサービス品質が低下し続けている中で、地域・社会の方々との連携は不可欠である。会社による埴町の「広報誌問題」における“ちゃぶ台返し”のように、これまで築き上げてきた信頼を失墜させるJ R東日本の経営姿勢は糺していかなければならない。私たちは労働組合としての役割を改めて捉え返し、地域に根差した活動をさらに推し進めていく。

板倉副委員長の強制配転を象徴とした組合差別の是正を求める「J R東日本(水戸地本)事件」は救済申立の提出から2年が経過した。「ジョブアンケート」による10名の仲間の処分撤回を求める追加申立を含め、これまでに9回の調査期日が行われ、今後は争点整理を経て審問に入る。また、八王子パンフ配布処分事件は都労委での完全勝利命令を維持したまま、中労委での審査が行われている。職場における組合活動の規制と排除は、労働組合敵視の経営姿勢がある限り止むことはない。「第三者機関」を活用したたたかいを展開し、輸送サービス労組運動の基礎である職場の“日常活動”を守るためにも、すべての救済申立の勝利を実現していこうではないか。

J R東日本輸送サービス労働組合水戸地方本部は結成から5年の節目の年を迎えた。結成の原点と意義を忘れず“すべての仲間”のための労働組合として奮闘し、労働者としての権利を守り、これからの5年間を見据えた運動を全組合員と共に歩み続けていく。全組合員で「共感」から「共創」する運動をつくり出し、組織強化・拡大を実現していこうではないか！

以上、宣言する。

2025年7月19日  
J R東日本輸送サービス労働組合  
水戸地方本部 第8回定期大会